

2019年度 和歌山県テニス協会 第2回 理事会 議事録

日 時 令和2年2月9日(日) 18:30~21:00
会 場 和歌山市中央コミュニティセンター 2階 活動室(2)
出席者 長坂、木村、大谷、島本、竹原、中村、山田、辻垣内、愛須、沢、土井、森川(雄)、
長田、中西、小島、木下、宮崎、阪中

(順不同)

1 挨拶 長坂会長

2 出席確認 理事総数30名に対し出席17名、欠席13名(内委任が9名)、有効数26名であり理事総数の過半数を超えているので、理事会として成立することを確認した。

3 議 題

第1号 令和2年度各委員会事業計画について

各委員長より、令和2年度の事業計画について説明があった。各委員会の特筆すべき点については以下のとおりでした。

一般大会委員会、選手の高年齢化もあり選手数が減少傾向にある。工夫をしてエントリー数増大に努めたい。

ジュニア大会委員会、日本テニス協会のジュニアJ P I N(全国ジュニアランキングと選手登録、大会運営ソフト[トーナメントプランナー]の活用)で、J P I N運営経費200円+J P I N利用料100円をエントリー代に上乗せせざるを得ず、消費税アップのこともあり、エントリー代を2500円にして行く予定。ジュニア大会委員会で話し合いスプリングステージは2500円を徴収することとし、その後の大会についても個々に検討し、総会時に提案する予定。

審判委員会、通常の大会へのロービングアンパイア派遣に加え、今年度は近畿ろうあ者体育大会に審判員を派遣する予定。

スポーツ医事科学環境委員会のこれまで実施してきた廃棄ボールの小学校等への提供については、仲介をしてきていたところが、スポーツグローバルアライアンスから日本プロテニス協会に代わり、ボール提供者側と日本プロテニス協会との直接やりとりになったため、事業計画からは外した。

I T委員会、和歌山県知事杯が全日本テニス選手権西日本大会の予選を兼ねるため、J T Aに申請せざるを得なくなり、そのためトーナメントプランナーを使う必要があるかもしれない。今後J T Aと協議していく予定。

普及推進委員会、近畿6府県のジュニア登録数を調べているが、奈良県は、1000人を超える選手登録者数があり、かなり差を付けられている。奈良は10歳以下もポイントランキングを付けており、選手同士に競争意識をつけているのではないかと思われる。今年度は試験的にグリーンボール大会の結果を基に10歳以下、8歳以下も大会ポイントをつけ、ランキングを作成したい。また、来年度には選手登録も検討しており、今後の競技者の増加に努めたい。

特に質問等はなく承認され、4月の定期総会で提案することとなった。

第2号 令和2年度各委員会事業予算について

木村理事長より、資料を用いて説明があった。説明の要旨は以下のとおり。

各委員会からの提案予算の合計を見ると次年度はプラスの収益であるが、今年度は約50万のマイナス収益となる予定。当初予定していたエントリー数より減少しているのが響いているためと考えられる。提案予算のエントリー数等を精査するとマイナス収益に転じることも考えられる。

今後の対処の方法としては、参加料のアップと運営経費となる役務費の減額で対応できないかと考えている。現時点では、国体、育成強化、普及推進など収益が見込めない事業を縮小することは検討していない。

次年度の進め方については、もう少し今年度の会計の精度が上がった上で、それぞれの委員長に相談しながら進めたい。

事業計画と予算については、訂正や修正がある場合は、定期総会までに再度連絡をしてほしい。特に予算については、再度エントリー数や運営経費を精査して欲しい。

愛須理事より、JPINの運用に係る経費の上乗せによるエントリー代の増額に便乗したエントリー代の実質値上げをしないで欲しいという意見があったが、木村理事長より、協会の収入の大半は大会エントリー代に因るため、協会全体の収益アップのことも検討しながら相談させてもらいたいとの回答があった。

中村理事より、和歌山市コンベンション事業は大会等で50名以上の宿泊者が見込める場合に申請できるので、育成強化委員会で行っている練習試合で申請できるのではないかとのご意見をいただいた。

その他は、各委員長と相談しながら進めていき、次年度予算を精査した上で、総会に向けて次年度予算を作成していくということでした。

第3号 その他

- ・ジュニアJPINについて、JTAジュニアランキング、選手登録、運営経費等においてなかなか全国で合意が取れなかったが、何とか令和2年度は稼働しそうであると情報提供を行った。ただし、ジュニアJPINの運用に伴って、大会結果の報告の仕方、トーナメントプランナーの活用など新しいことが始まることが予想される。
- ・JTA功労者表彰については、今年度は推薦者なしとすること、また次年度以降は申請する方向で検討したいと木村理事長より報告された。
- ・日中韓ジュニア交流大会が令和5年に和歌山県で開催されるとのこと、今年度は秋田県で開催されるため8月末に視察に行かなければならない。出場する選手は18歳以下の選手で日本・韓国・中国の各国約250人に加え開催権選抜250名の約1000名規模となる予定であるが、詳細の日程や大会規模など詳細が不明なため、まだよく分からない。
- ・山田理事より、旅費規程と役務費規程について、委員会ごとで不公平がある部分については見直しをお願いがあり、誰もが納得できるような形にしてもらいたいとの提案があった。
木村理事長より、規定できてない部分があるのは承知しているので、その部分については検討すると回答がありました。

- ・事務局より、紀三井寺とつつじが丘のコート利用の注意事項について説明を行った。
特につつじが丘は、電話のみによるコートキャンセルができなくなり、窓口かメールかFAXによる連絡方法に変わった旨の連絡を行った。また、つつじが丘については、令和3年度以降、コートキャンセルが出来るのは2週間前にしたいという話が調整会議事につつじが丘テニスコート支配人よりあったが、実際にキャンセルするためにはある程度正確な天気予報が必要であり、それを考えると2週間前ではなく10日前にしてもらえないかと要望したと報告があった。
- ・山田理事より、大会で押さえているコートの空きコートを利用して、PLAY&STAYやグリーンボール大会の開催を行いたいと考えているため、空きコートがある場合は教えて欲しいという要望があった。
阪中事務局より、まずは空きコートが出来ないように、1日をフルに活用できるようなコートの取り方を各委員会にお願いするとともに、空きコートが出来る場合や大会予備日は、出来るだけ早く一般の方に広くお知らせできるような意識を持ってもらいたい、またそのお知らせする方法を考えたいとのことであった。
木村理事長より、まずは確保しているコートの利用状況を調査したいため、次年度のコート利用についてその実績を付けていってほしいという要望があった。
- ・木村理事長より、各委員会の今年度事が終了した時点で、事業報告と決算をお願いしたいというお願いがあった。

4 閉会挨拶 長坂会長

議事録作成：事務局 阪中